

■國定忠次江戸入 (六卷)

帝キキ音屋時代映畫

原作者 市村 房子氏
脚色者 小國 狂二氏
監督者 山下 秀一氏
撮影者 綱本 榮一氏
主演者 明石 綠耶氏
松本 田三郎氏
松枝 鶴子嬢

第二百卅三號

紹介 赤城を落ちた國定忠次が江戸に上つての挿話で、從來各社で映畫化した「國定忠次」の續篇とも云ふべき物語であるが全體が如何にも作り話らしく感心出来なかつた。義侠のため大金を擲つて人の女を身請する邊りなど赤城を落ちた忠次の義侠振りとは思へない。幻想に於ける赤城山は未だ良いが、山形屋をつくりの型で女を取戻す邊りは新作だけに味だつた。山下秀一氏の監督は役者の芝居を生かしては居たが監督手法は平凡の域を脱して居ない。明石綠耶氏の忠次は山形屋張りの件りは大芝居だつた。だがさすが舞臺を踏んで居た人だけしつかりした演技を見せて居た。松枝鶴子嬢の藝妓愛吉は得意の役で難がない。山本 綠葉 興行價値——明石綠耶氏の國定忠次だけで客が呼べようが山形屋張りの件りを聲色入りでやつたら一層受けるであらう。(七月十三日 神戸相生座封切)